



政府統計

報道関係者 各位

令和3年5月19日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室
縦断調査管理官 佐藤 恵治
室長補佐 佐々木 和之 (内線 7473)
(担当) 出生児縦断統計業務係 (内線 7566)
(代表電話) 03(5253)1111
(直通電話) 03(3595)2321

第10回「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の結果を公表します

厚生労働省では、このたび、同じ集団を対象に毎年実施している「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の第10回（令和2年）の結果を取りまとめましたので、公表します。

21世紀出生児縦断調査は、21世紀の初年である平成13年に出生した子を継続的に観察している調査と平成22年に出生した子の比較対照等を行うことにより、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。

調査時点での子どもの年齢は、10歳（小学4年生）です。

【調査結果のポイント】

1 母の就業状況の変化

- ・母が有職の割合は第10回調査（小学4年生）で77.0%となり、平成13年出生児（第10回）の65.7%に比べて11.3ポイント高い（3頁 図1）
- ・出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第1回調査から第10回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児では36.5%で、平成13年出生児の25.9%に比べて10.6ポイント高い（4頁 図2）

2 子どもの生活の状況

(1) 携帯電話（スマートフォンを含む）の保有状況

小学4年生に携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせている割合は32.8%と、平成13年出生児の14.4%に比べて18.4ポイント高く、持たせた時期は「小学1年生から」が31.6%と最も高い（5頁 表1）

(2) コンピュータゲームの利用状況

登校日にコンピュータゲームをする割合は74.8%と、平成13年出生児の65.2%に比べて9.6ポイント高く、学年が上がるにつれてゲーム時間が長い（6頁 図4、図6）

3 子どもの日常生活で気になることや悩み

子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合は78.4%と、平成13年出生児の75.4%に比べて3.0ポイント高く、学年が上がるにつれて増加（7頁 図7、図8）